



## 診察の前後の時間を有効活用できます

面談は主治医の診察までの待ち時間を活用したり、診察結果で分かりにくかったことを確認できるように診察後に行ったりしています。

外来受診の時間を有効に生かし、ご自宅での生活がより良いものになるようにしていただきたいと思います。



私たちが対応いたします

## 心不全手帳でセルフモニタリング

患者さん自身で、血圧・脈拍・体重測定や、心不全の症状である足の浮腫や息切れなどの症状の観察を行い、その結果を心不全手帳に記載して体調を把握することをセルフモニタリングといいます。

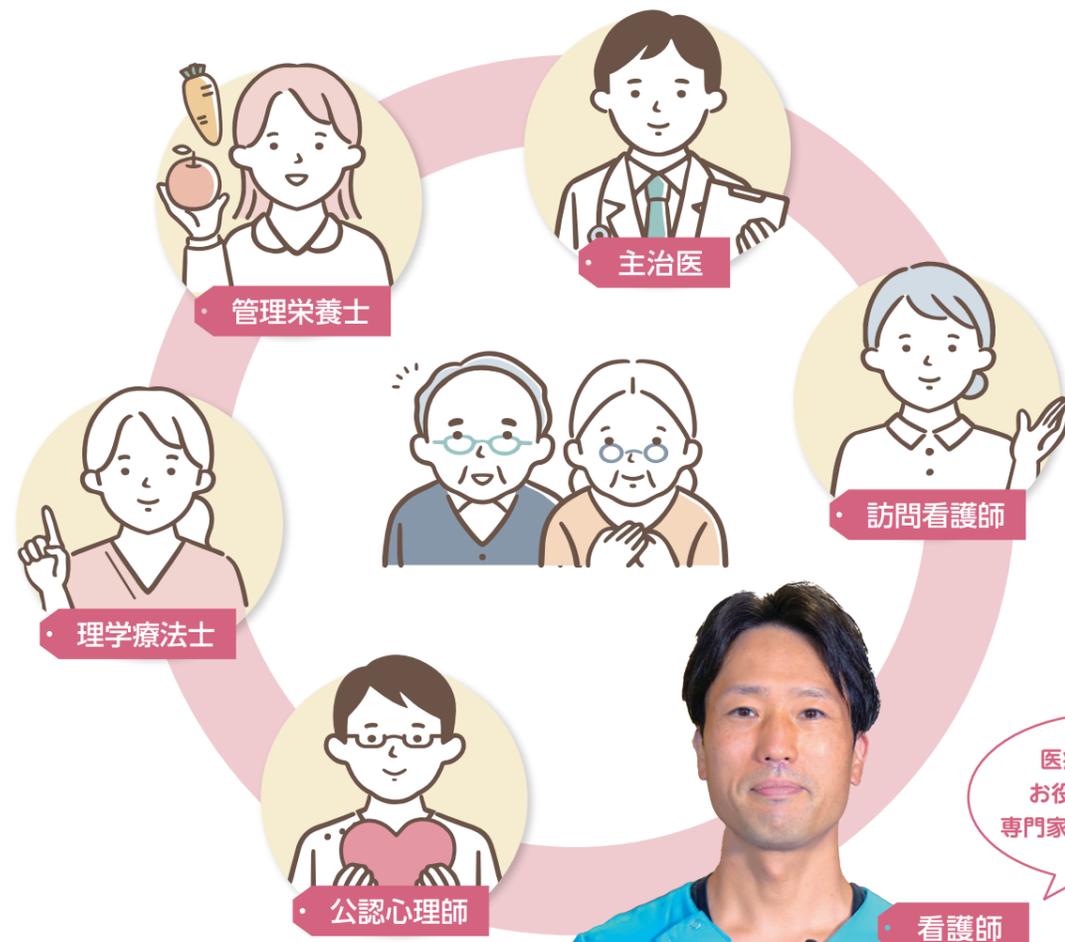
自分で体調の変化を捉え、早めに受診することで適切なタイミングで検査や治療を受けられるようにしましょう。心不全の悪化や再入院の予防には早期受診が大切になります。



らくわ健康教室  
Web版で動画配信中



# 多職種連携 心不全 看護外来



医療や介護のお役立ち情報を専門家が解説します!



講師

洛和会音羽病院  
3D 病棟 師長  
慢性心不全看護認定看護師  
ふくだ ひろし  
**福田 紘**

## らくわ健康教室って?

らくわ健康教室は、一般の方を対象に、医療や介護の専門家が健康に役立つ情報を分かりやすく解説する無料の講演会です。講演会(現在は休止中)に加えて、Web での動画配信や紙面で病気の治療や予防、介護や健康保険・介護保険などについて発信しています。(後援：京都市・京都市教育委員会)

洛和会音羽病院  
心臓内科・不整脈科

お問い合わせ

TEL 075 (593) 4111 (代)

心不全は良くなったり、悪くなったりを繰り返しながら少しずつ病期が進んでいきます。完治はできないため、うまく病気とつきあっていくことが必要となります。洛和会音羽病院では、医師や看護師、薬剤師・理学療法士・管理栄養士・公認心理師・相談員がチームとなって心不全患者さんご家族の療養生活を支援しています。

また、入院中だけでなく外来通院中や地域の診療所・介護施設などとも連携を図り、切れ目のない療養生活支援ができるように心掛けています。

後援 **京都市・京都市教育委員会**

編集・発行/洛和会企画広報部門 TEL: 075 (594) 8488

夢、そして誇り。この街で…  
洛和会ヘルスケアシステム®

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院  
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院

## はじめに

洛和会音羽病院では、通院されている心不全の患者さんに専門的な資格を持つ看護師が面談する「心不全看護外来」を設けています。主に「セルフ・ケア（体調管理）の確認」「日常生活上の相談」にポイントを置き、療養生活を支援しています。



## らくわ健康教室Web版で動画配信中。

気になる健康情報をYouTubeにて毎月更新しています。ぜひチャンネル登録を！

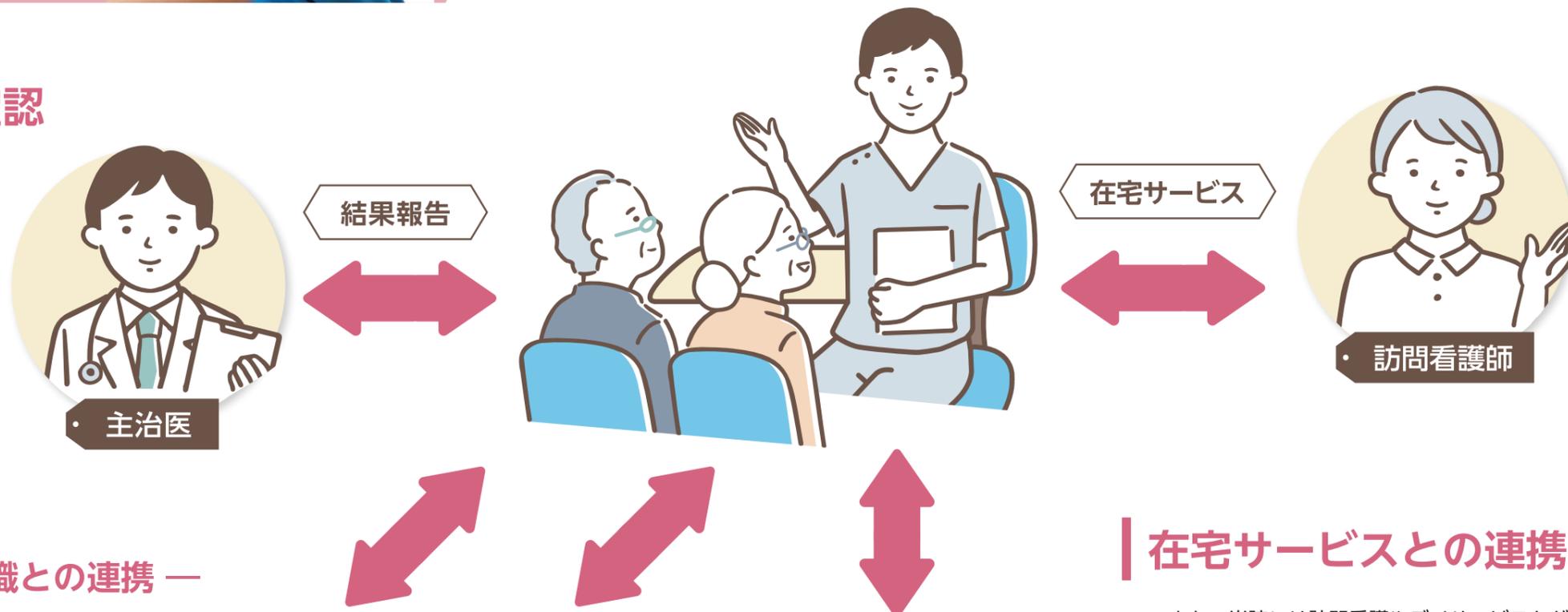
<http://www.rakuwa.or.jp/kenkoevent/rkk.html>



## セルフ・ケア（体調管理）の確認

心不全は、入院治療で病状が改善しても退院後の体調管理が十分でないと繰り返し悪くなり、再入院することになります。そのため、患者さん自身や介護をされている方が血圧や体重の変化、足のむくみや息切れなどの症状がないかを確認し、悪化が見られたら早めに受診することが重要です。

心不全看護外来では、患者さんと一緒に体調管理の状況を確認し、アドバイス致します。面談の結果は主治医に報告し、診察に役立てられます。



## 日常生活の相談 — 他の専門職との連携 —

心不全の病状が悪くなる原因には、患者さんの生活行動や管理に影響されるものが多くあります。特に水分・塩分の管理不足や感染症予防のワクチンの未接種、お薬の服用が決められた通りできていないことが挙げられます。

しかし、患者さんや介護をされる方が、これまでの生活習慣を変えることは簡単ではありません。心不全看護外来では、患者さんの生活の様子やご希望を伺いながら、必要に応じて看護師以外の専門職スタッフの支援する体制を整えています。

例えば運動が必要な患者さんにはリハビリテーションセンターでの外来心臓リハビリを紹介したり、病気と向き合う上で気分が落ち込んでいる患者さんには公認心理師のカウンセリングを紹介したりします。症状が悪化する原因で最も多い、塩分制限で困られている患者さんには、管理栄養士からの指導が受けられるようサポートしています。

## 在宅サービスとの連携

また、当院には訪問看護やデイサービスなどの在宅サービスを利用されている患者さんも多くいらっしゃいます。心不全看護外来では、主治医の診察や心不全看護外来での面談結果について、患者さんが利用されている在宅サービスの担当者にも情報を共有しています。

病院側・在宅サービス側双方から連絡を取り合うことで、患者さんの診察内容や在宅サービスをより良くしたいと思えます。

